

時事新報

第千二百三十六號
 明治十九年三月三十日 火曜日
 西曆一千八百八十六年
 日出版五時五十分
 月入前六時五十分
 年入前六時五十分
 日出版五時五十分
 月入前六時五十分
 年入前六時五十分

時事新報定額
 一、本報定額 一月前金十五圓 三月前金四十圓 半年前金八十圓 一年前金一百五十圓
 二、本報廣告 第一日 每行一元 第二日 每行八角 第三日 每行六角 第四日 每行五角
 三、本報代印 每行一元 每行八角 每行六角 每行五角

時事新報廣告
 第一日 每行一元 第二日 每行八角 第三日 每行六角 第四日 每行五角

時事新報

日本國の鐵道事業 十三

米國の鐵道は最も廉價なり
 米國は世界中で鐵道建築費の最も廉なる者ありといふ事は、鐵道の開通する所にして、畢竟は米國を鐵道事業に對して、最も廉價の積み且つ、技術を磨きたる邦國也。これらからざるは、故に其建築費の廉なるも、一般經濟の法則よりして、然らざるを得ざるからん何とあれば、大仕掛にて多額に造りたる品物の價值は、小仕掛にて造りたる品物より、都て廉なるの道理にして、經驗技術の進歩の製造人は、品物の價と不廉にせずして、更其品質を改良すると、容易ければ、再び言すれば、米國の鐵道製造は、真に其經濟原則の勳功と代表とするものにて、價值より見れば、廉く品質より評すれば、堅く、一舉兩益の實を存するなり。我輩斯く言ふも、決して無稽の架空談を説くにあらず。即ち現在の證據と申すに、日本にて、現に北海道鐵道の如き、實例あり。今日まで、この鐵道に限り、故に、米國の鐵道に比し、不便にして、破損危險の虞り多しと、聞かず。尋常一様他は、諸鐵道と同じ効用を呈し、且つ、最初建築費の廉なるに、至りては、寧ろ法外とも稱すべき次第あり。米國の鐵道に比し、多寡一からずと雖も、或る書に據る、米國の鐵道中、其建築費は、最も高價なる者、西ウキスコン州の鐵道にて、一英里五萬七千八百六十弗あり。又其費の最も低きものは、ウキスコン州の鐵道にて、一英里間の工費一萬五千二百四十四弗あり。之と推して、考れば、日本の北海道にて、鐵道工費の廉なりしと、亦、僅かに、足らざるなり。

單に氣候よりこれを見るに、北海道の鐵道の不廉なる、と、勢ひ、已むを得ざるの次第に、いひ、米國の今日、は、急務は、北海道の新鐵道、非ず、青森以南、一線斜めに、馳て、本陸と通ずる、九州に、繋ぐに、在るは、我輩、比、既に述べたる所なるが、此一直線、路中、北するに、隨ひ、前記、風雪等の妨害、漸く、多く、日本鐵道會社の、鐵道、開通、に、對して、冬、間、尙、工事、に、困難、あり、など、云、苦情、も、なき、日本國中の、鐵道、は、一英里、平均、必、三萬圓、又、四萬圓、と、確定の、算、と、下、すべき、譯、にも、在、り、難、けれど、夫れ、と、ても、又、深く、憂、ふ、る、は、是、る、ま、じ、も、の、仔細、如何、と、云、ふ、米國の、鐵道、は、同、く、厚、雪、と、閉、塞、と、凌、ぎ、て、工、事、を、進、め、た、る、は、相、違、なく、全、體、の、氣候、冬、の、寒、夏、の、暑、の、大、懸、隔、を、見、ざる、べく、寒、る、地方、により、て、季、候、の、變、化、日本、より、甚、しき、處、亦、これ、あり、と、せば、日本、の、鐵道、を、米國、製、する、と、も、其、費用、の、實際、に、當、り、さ、る、は、我輩、の、信、じて、疑、ひ、ざる、所、あり、其他、詳細、に、論、せば、山、岳、江、河、の、大小、險、易、に、對、して、鐵道、工、費、に、多、様の、難、易、得、得、與、ふる、は、固、より、の、事、にて、又、都會、と、田、舎、との、違、ひ、に、て、も、費用、に、は、著、しき、變、動、あり、都會、なれば、線、路、に、當、る、土地、及、び、家、屋、買、入、の、價值、も、高、く、加、ふる、に、車、馬、往、來、の、繁、さ、市、街、の、中、に、地、平、線、に、馳、せて、線、路、と、作、ら、ば、通、行人、の、不、便、危險、亦、上、も、無、かる、べ、く、故、に、故、に、これ、と、地下、鐵道、或、は、空中、鐵道、と、改、めて、市、街、を、横、切、ら、ざる、可、から、ず、これ、人口、の、多、き、國、と、鐵道、と、對、して、建築、費、も、相、違、と、生、ず、る、所以、な、れ、米國、の、大、體、を、就、て、論、ず、れば、此、等、の、小、異、同、固、より、以、て、大、數、を、動、す、る、足、ら、ざる、米國、風、情、鐵道、と、すれば、其、建築、費、の、甚、く、低、廉、なる、は、蓋、す、可、ら、ざる、明白、事實、なり、特に、愛、し、附、け、て、述、べ、置、きた、き、と、あり、と、申、す、は、今日、と、なり、て、は、日本、の、鐵道、事業、に、言、ふ、も、或、は、證、を、き、次第、なら、ん、な、れ、と、も、全、體、日本、現、在、の、鐵道、之、狹、道、軌、線、と、唱、へ、て、歐、米、一、般、の、鐵道、と、は、格、外、なる、者、なり、我輩、が、改、めて、述、ぶ、る、ま、で、よ、と、あら、ざ、れ、ば、鐵道、線、路、に、廣、軌、道、と、狹、軌、道、の、二、様、の、軌、道、の、廣、さ、も、四、五、尺、八、英、寸、より、五、英、尺、以上、に、至、る、と、これ、廣、軌、道、と、稱、し、狹、さ、も、三、英、尺、六、英、寸、より、二、英、尺、以下、に、下、る、と、狹、軌、道、と、稱、す、云、ふ、なり、而、して、一、般、世、の、廣、軌、道、と、唱、ふる、は、四、尺、八、寸、五、分、の、鐵道、にて、一、お、之、と、本、位、軌、道、と、稱、し、歐、羅、巴、諸、國、并、に、米國、も、於、て、軌、道、の、軌、道、の、廣、さ、を、用、ふる、あり、又、之、は、對、する、狹、軌、道、の、通常、三、尺、六、寸、五、分、を、程度、とし、印度、は、鐵道、并、よ、支、那、開、平、礦、山、鐵道、等、是、あり、と、聞、く、日本、は、鐵道、も、最初、如何、ある、手、都合、にて、あり、しか、明治、五、年、開、通、の、東、京、橫、濱、間、の、線、路、に、この、狹、軌、道、を、採、り、し、以來、兩、後、の、新、鐵道、は、みな、この、狹、軌、道、と、使用、する、の、運、命、に、落ち、し、は、今、更、言、ふ、て、返、ら、ぬ、と、な、が、ら、單、に、建築、費、の、點、より、論、ず、れば、鐵道、軌、道、の、費用、は、固、より、之、に、使用、する、機關、車、客、車、荷、車、の、類、ま、で、も、これ、お、準、えて、一切、低廉、なる、と、無論、の、事、あり、聞、く、米國、にて、人家、最も、稠、く、地、價、最も、高、く、加、ふる、よ、山、河、險、惡、の、最も、甚、しき、地方、より、して、廣、軌、道、の、建築、費、諸、事、類、と、合、せ、一、英里、間、平均、六、萬、弗、狹、軌、道、より、して、(即、ち、日本、の、鐵道、と、同、き、もの)、同、く、三、萬、弗、内外、あり、と、左、れば、

○陸軍省令第八號 北海道廳 府縣 神戶縣 本年近衛鎮守府兵入營ノ上定員上過員(東京鎮守府兵第十五聯隊大阪鎮守府兵第二十聯隊編制上據置クヘキ過員ヲ除ク)トナル人員ハ十六年以前ノ徵兵コソテ來ル八月三十一日迄ニ滿期トナルヘキ徵兵ノ者及ヒ十七年徵兵ノ内ヨリ新兵入營前除隊歸休セヨ
 明治十九年三月廿九日 陸軍大臣 伯耆大山 謹
 ○辭令 建築局事務官 末松 房泰 依願解任(三月二十七日內閣) 非稱元內務省御用掛 井上 正貞 依願解任(三月二十七日內務省) 大藏書記官 青木 鳳一 總務局傳票課長兼文書課勤務被仰付(三月二十三日大藏省) 藤島 正健 總務局文書課長兼傳票勤務被仰付(三月廿七日內閣) 臨時地方遞信事務取調委員 林 董 遞信省電信局長 福田 重固 遞信省會計監督官 林 英吉 遞信省少技長 志田 林三郎 遞信省驛遞官 佐々木 陽太郎 因藤 成光 遞信書記官 飯山 正秀 若宮 正音 臨時地方遞信事務取調委員(以上三月二十七日遞信省) 軍人恩給交付 東京府に於て本年一月より三月に至る迄の軍人恩給と來る四月五日乃至八日お交付す其の人員は二百八十七人にて金額は五千六百八十四圓二厘なり(東京府報告) 刑罰刺患者 虎列刺患者は大阪府より去る二十三日屆十四人死亡六人なり(大阪府報告) (以上四件本年三月廿九日官報)

○朝鮮京城通信 京城三月十三日發 日本郵船會社にては長崎より釜山を経て仁川までの航路を月に二度と定先義にその航海日限表と出したれ共實際の日の限の如くならず一度もその日限に合せしとなし但し三菱の時代はは大風暴波のゆめに一日ぐらい後れたるとは聞々ありと今日の日如く月に二度を一度とせ或は五日も十日も後るゝとは實にこれるかりき郵船會社の汽船は今年に入りて也已一回の航海と省きながら尙は數日を後れて二月中旬仁川入港せり二月も亦一回の航海と省けり○當時京城に在留する日本官民の數は一百人又近去就ては仁川同構當地にも郵便局と設けられんと望む者多し但し京城にては現日本郵船會社にて仁川郵便局は取寄をなし仁川より郵便到來すればそれを官民の別なく配達し又官民の發する郵便は領事館にて受取りて仁川へ送り各處に郵送すると得れ共書留替の書狀に至つては京城領事館にて取扱はすされ一つの不便ありて尙は一の不便ハ日本郵船仁川に著する翌朝又ハ其既に公狀のみは京城に達せられ私狀は翌朝又ハ翌朝より朝よりあらば京城に達せず故に余輩は日本よりの郵便と受取りて返事を認めて領事館に持ち往くも郵船出帆の間に合はぬと多しなるとなれば郵船の碇泊と五日間なり而し余輩

が日本來狀を受取りて若しその即日返事を館より仁川に送達する京城に郵便局と設け公書留の便と聞くと云々なり○この度日本朝鮮基釜山と京城との間日本より金二十萬圓をれども其儘となり居り支那より銀と朝鮮に貸とある由但し架設のて引附る由○此國外衙門と稱せしが近々之職權 江外の支那兵營官二人下士官八人又京○朝鮮にては開港場の川釜山元山の四處又鐵道會社事務に監督官四時の別なく開き支那より毎年十月に一度又近く港をなすと以て來より今年中引續き公使袁世凱の近々日本支那朝鮮兩國の間より來る舊曆三月と期し又て開港する由就てはぐるとならん○釜山義しとの履歴ある李鏡永他に任せられたり ○暴人又見はる 昨年なるものが其身の不幸の外務卿フレッチャー氏るが近頃又之に似寄り月二十五日の事と代突然一人の見慣れぬ男急に其携へたる短銃をちらる後徐かに一封のソニー氏の着席したるお馳行きて右の暴人と雜大方ならず聲を擧げて代議院議長は足元に散の名をホイレーと云ひ士官にして上官より賜賜られし今に其て代議院を騒がせて己意より無據此所業にクレマンソー氏の方に知すべしと目言を配○小學生徒の衣服改良の衣服と改良せんとて小學校へ配布したるよ小學校生徒徒衣服改良の衣服と改良せんとて小學校へ配布したるよ小學校生徒徒衣服改良の衣服と改良せんとて小學校へ配布したるよ